

芸 術

1 学習指導と評価の改善・充実

～生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるための指導と評価の工夫～

(1) 芸術科のねらいと課題

芸術科のねらいは、表現及び鑑賞にかかわる幅広い活動を通して、芸術を愛好する心情と芸術に対する感性を育て、芸術の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養うことである。このねらいを実現するため、各科目の内容は「A表現」と「B鑑賞」で構成されている。

内容の取扱いに当たっては、表現活動と鑑賞の能力を相互に高めるために、中学校における学習内容を踏まえ、「A表現」と「B鑑賞」を関連付けた指導を工夫し、一層充実させることが大切であるが、芸術科においては次のような能力や態度を育成することが課題としてあげられている。

- | | |
|---|---|
| ア | 感性を高め、思考・判断し、創意工夫をしながら表現したり、鑑賞したりするという一連のプロセスを働かせる力を育成すること。 |
| イ | 生涯にわたって、芸術に親しみ、芸術文化のよさを味わったり、生活や社会に生かしたり豊かにしたりする態度を育成すること。 |
| ウ | 感性を働かせて感受（感じ取り）したり、自分の思いや考えを大切にしながら自分なりの意味、新しい美、自分を発見したりするなどの能力を育成すること。 |
| エ | 我が国の文化に愛着を持ち、伝統の継承や創造への関心を高めるとともに、諸外国の文化を理解し尊重できる態度を養うこと。 |

これらの課題の解決を図るためには、目標に準拠した4つの観点から授業のねらいを明確にし、具体的な指導内容や指導方法を検討することが必要である。

また、生徒の実態や学習内容に合わせた観点別の評価規準を作成し、評価の客観性と信頼性を高めるとともに、生徒の学習意欲を高めるための評価方法を改善し、評価の一層の充実を図ることが大切である。

(2) 「B鑑賞」の指導の充実

豊かな感性を高め、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育てる観点から、鑑賞活動の重視が求められており、各科においては「B鑑賞」の指導事項の中でも、特に次の事項に配慮して指導の改善・充実を図ることが必要である。

<鑑賞の指導の改善・充実を図るポイント>

音楽	我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を基盤として、多様な音楽それぞれの価値を尊重し、音楽文化の継承と創造的な発展に資するような力の育成を図ること。
美術 工芸	日本の伝統的な美術の表現や美術文化についての関心・理解を深めたり、自分なりの意味や価値をつくりだしていくような鑑賞の指導の充実を図ること。
書道	日本及び中国等の書の文化や表現の特質などについての関心や理解、作品の見方を深める鑑賞の指導の充実を図ること。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

～「音楽」の指導と評価の一体化を進める取組～

(1) 評価計画表の例

科目名		音楽						
単元名		自分の思いを伝えよう						
単元の目標		(1) 楽曲における旋律の音構成や歌詞と、それらが生み出す曲想の美しさを感じることが出来る。 (2) 自分の思いを持ち、それを表現できる旋律の創作を行うことができる。 (3) 自分の思いを伝える効果的な表現方法を考え、演奏することができる。						
評価の観点		関心・意欲・態度 〔観点〕	芸術的な感受や表現の工夫 〔観点〕	創造的な表現の技能 〔観点〕	鑑賞の能力 〔観点〕			
内容のまとめ りごとの 評価規準	鑑賞	声や楽器の特性と表現上の効果、楽曲の歴史的背景、我が国の伝統音楽や世界の諸民族の音楽の種類と特徴に関心を持ち、意欲的、主体的に鑑賞しその喜びを味わおうとする。	声や楽器の特性と表現上の効果を知覚し、それが生み出す曲想の美しさ、我が国の伝統音楽や世界の諸民族の音楽の種類と特徴を感じ取っている。			声や楽器の特性と表現上の効果、楽曲の歴史的背景、我が国の伝統音楽や世界の諸民族の音楽の種類と特徴を理解して、楽曲を聴き取り、そのよさや美しさを味わおうとする。		
	表現 (創作)	音階や和音、音楽の組み立て方、音素材に関心を持ち、意欲的、主体的に創作や即興的表現を工夫している。	音楽の諸要素を知覚し、それが生み出す表情の変化を感じ取って、創作や即興的表現を工夫している。	自己のイメージを持ち、創作や即興的表現をするための技能を身に付けている。				
	表現 (器楽)	いろいろな楽器の特質や奏法、視奏、曲の構成及び曲想に関心を持ち、意欲的、主体的に器楽を表現し、その喜びを味わおうとする。	音楽の諸要素を知覚し、それが生み出す曲想や美しさを感じ取って、器楽表現を工夫している。	楽曲から感じ取ったイメージを、創造的に器楽表現するための技能を身に付けている。				
	表現 (歌唱)	曲種に応じた発声、視唱、歌詞及び曲想に関心を持ち、意欲的・主体的に歌唱表現し、その喜びを味わおうとする。	音楽の諸要素を知覚し、それが生み出す曲想や美しさを感じ取って、歌唱表現を工夫している。	楽曲から感じ取ったイメージを、創造的に歌唱表現するための技能を身に付けている。				
評価規準の 具体例	鑑賞	楽曲による音楽の表現上の効果について関心を持って鑑賞している。	楽曲による音楽の表現上の効果を知覚し、それを生み出す美しさを感じ取っている。			楽曲による音楽の表現上の効果やそれを生み出す美しさを感じながら鑑賞している。		
	表現 (創作)	旋律における音構成に関心を持ち、主体的に創作に取り組んでいる。	旋律における音構成と、それを生み出す曲想に配慮して、自分の思いや意図を持つことができる。	旋律における音構成と、それを生み出す曲想に配慮するとともに、自分の思いや意図を生かした旋律を作ることができる。				
	表現 (器楽)	楽曲による音楽の表現上の効果について関心を持ち、自分の思いを表現し、その喜びを味わおうとしている。	旋律における音構成と、それが生み出す曲想や美しさを感じ取って、器楽表現を工夫している。	旋律における音構成と、それを生み出す曲想に配慮するとともに、自分の思いや意図を表現するための技能を身に付けている。				
	表現 (歌唱)	歌詞や曲想に関心を持ち、意欲的・主体的に自分の思いを表現するとともに、その喜びを味わおうとしている。	歌詞や旋律における音構成と、それを生み出す曲想や美しさを感じ取りながら歌唱表現を工夫している。	歌詞や旋律における音構成とそれを生み出す曲想に配慮するとともに、自分の思いや意図を表現するための技能を身に付けている。				
題材(時間)	学習内容			観点	観点	観点	観点	評価方法
鑑賞 (1)	パターン	数曲のサンプルミュージックを聴き、旋律の音型がどのように曲の雰囲気や特徴となって現れるのかについて考え、ワークシートに記入する(サンプルミュージックは良い例と悪い例を提示する)。	パターン	「この道」「トルコ行進曲」「カーロ・ミオ・ベン」を鑑賞し、旋律の音型及び歌詞との関連性について考え、それらがどのように曲の雰囲気や特徴となって現れるのかについて理解し、ワークシートに記入する。				観察法 ワークシート
	<p style="text-align: center;">感受させたい内容(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の上行・下行 気持ちの高揚や落ち着きを表現 ・同じ音型の反復 旋律を印象付ける効果 ・音の跳躍 気持ちの広がりや表現 ・音価の長い音符の多用 切迫感、緊張感を表現 ・高音での持続 気持ちの広がりや感動・開放感を表現 ・歌詞のイントネーションと音型の一致 違和感のない自然な歌詞表現 							
創作 (2)	前時(鑑賞)で学習した内容を生かして、DTM等を活用し器楽の旋律を創作する。 (8小節、指定された音を使用し作曲する) 作品で表現したかった思い、作成の際の工夫点等をワークシートに言葉で表現する。	前時(鑑賞)で学習した内容を生かして、歌唱又は器楽の旋律を創作する。 (8小節、使用音は限定せず作曲する) 作品で表現したかった思い、作成の際の工夫点等をワークシートに言葉で表現する。					観察法 創作楽譜 ワークシート	
表現 (2)	自己の作品に込めた思いや作曲の意図を伝えるための効果的な表現について考え、それらを発想記号、強弱記号等で楽譜に表記する。 自己の作品を演奏発表する。その際、自己の作品に込めた思いや作曲の意図を生かした表現の工夫を行う。 他の演奏を聴き、その表現効果について知覚し、批評をする。						観察法 創作楽譜	

(2) 評価方法の具体例

ア 「ワークシート」による評価方法（学習内容パターン の場合）

1) 評価の観点 ⇨ 観点 - 「楽曲による音楽の表現上の効果を知覚し、それらを生み出す美しさを感じ取っている」

2) 「評価B」とする場合の状況（おおむね満足できると判断される状況）

歌詞の意味やイントネーションと旋律の音構成の関連に気付き、それらがどのような表現上の効果があるのかについて理解している。

- ・ 「評価A」とするのは、「評価B」よりもさらに高度な達成状況にある場合
- ・ 「評価C」とするのは、「評価B」に達成していない場合

3) 「評価C」と判断する生徒への指導の手立て

歌詞のイントネーションと旋律の音型を比較させてみたり、歌詞のイントネーションに合わない音型の例を提示して、歌詞の意味やイントネーションと旋律の音構成の不自然さに気付かせる。また、歌詞の中で特に大切な部分や言葉をとらえさせ、その部分に付された音型にはどのような特徴があるのか考えさせながら、言葉と音型の関連性や、それによって醸し出される雰囲気・魅力について感受させ、自分なりの言葉で表現できるよう援助する。

4) 評価の例（ワークシートの表現による例）

ワークシート	1年3組 氏名
「この道」を鑑賞し、歌詞と旋律（メロディー）の関係について下記の二つことを考えて書いてみよう。 歌詞の内容と旋律、歌詞のイントネーションと旋律等がどのように関連しているのか それらがどのように私たちの心に感じるのか（それらがどのような表現効果に結びついているのか） 自分なりの言葉で書いてみよう	
「ああ そうだよ」の「ああ」の部分の音が他の音よりも高い音になっており、テヌートが付けられている、このことにより、「ああ」という言葉が強調され、作詞者の感動の気持ちが聴いている人に伝わりやすくなっている。	評価A
「ああ そうだよ」の「ああ」の部分の音が他の音よりも高い音になって強調されている感じがして、聴いていて気持ち良かった。	評価B
「ああ そうだよ」の「ああ」の部分が、盛り上がっていた。	評価C

イ 「創作楽譜」による指導と評価方法（学習内容パターン 及び の場合）

< 学習内容パターン >

< 学習内容パターン >

5音を使って、8小節のメロディーを作りましょう

上の作品（楽譜）は【評価A】の事例

- ・ アウフタクトを効果的に使用している。
- ・ 同じ音型の反復で、旋律を印象付けている。
- ・ 音高の効果を理解し、オクターブ上を使用しており旋律の高揚を表現している。

リコーダー曲

【上記の曲について、生徒に指導する場合】

- ・ 音符の種類を増やしてみよう。
- ・ シンコペーションなどリズムを使ってみよう。
- ・ 音域を広げよう。

等アドバイスをし、更に音楽の広がり促すことも大切である。

上段の作品（楽譜）は【評価B】の事例

- ・ 指導の結果、改善された下段の作品（楽譜）は【評価A】に当てはまる。

3 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

～「美術」の指導と評価の一体化を進める取組～

(1) 評価計画表の例

科目名	美術							
単元名	表現(素描)及び鑑賞「モノトーンの美しさ」							
単元の目標	(1) 自然物の持つ美しさを感じ取り、主体的にその感動を表現する。 (2) 素描の基本的な表現法を学び、対象をよく観察しながら、粘り強く制作する。 (3) 作品から、互いのよいところを鑑賞し、その美しさを味わう。							
評価の観点	関心・意欲・態度 〔観点〕	芸術的な感受や表現の工夫 〔観点〕	創造的な表現の技能 〔観点〕		鑑賞の能力 〔観点〕			
内容のまとめり ごとの評価規準	絵画や彫刻の多様な表現方法に関心を持ち、自己の考えや夢、感動を基に表現を構想し、技能を生かすなど、意欲的、主体的に表現に取り組み、その喜びを味わおうとする。	感性を働かせて対象のよさや美しさ、自己の心的世界などをとらえ、主題を生成し、表現形式や方法、造形要素、材料や用具などについての体験的理解を基に、自己の表現意図に合った方法を創意工夫し、創造的に表現を工夫している。	表現形式を選択し、デッサンや色彩の表し方を工夫して、構成を考え、材料や用具を効果的に活用するなど、主題の意図を生かして表現している。		作者の心情や意図と表現の工夫、生活や自然の中に働く美術の意義や価値、日本の美術の歴史と表現の特質などを感じ取り、映像機器や情報通信ネットワークなども活用して理解を深め、美術作品のよさや美しさを創造的に味わおうとする。			
評価規準の具体例	美に対する感動や情感、自己の考えや夢を基に、主体的に表現しようとする。 表現意図に応じて、新しい材料や用具の発見、活用に努めている。	対象をよく観察し、感じ取ったよさや美しさや情感を基に発想することができる。 色彩と形体、面や質感、量感、空間、均衡や動勢などの造形要素を理解し、表現の構想を練ることができる。 表現の幅を広げ、自己の意図に合った表現方法を創意工夫している。	スケッチやデッサンを繰り返し行い、対象の特徴をつかむ力を身に付けている。 絵画や彫刻における材料の特性や用具の使い方などを理解し、効果的に活用している。 表現方法の特性による表現効果の違いに気付き、意図に応じて創造的に活用している		作品のよさや美しさを深く味わい、題材のとらえ方や表現の仕方のよさを感じ取ることができる。 自然の中の美的秩序や美しい空間を発見し、それらのよさや美しさを味わおうとする。 表現のよさや作品の美しさに対し、自己の意見を述べることができる。			
題材(時間)	学習内容			観点	観点	観点	観点	評価の方法
導入 (1)	身近な自然物を例にして、美的秩序を理解する。 作家の素描作品を鑑賞し、素描の美しさを感じ取り、本単元の内容を理解する。							ワークシート
素描 (2)	対象をよく観察し、形体や質感などの特徴をつかみながら表現する。 鉛筆とペンによる表現法の特性を生かして素描をする。							鉛筆素描 ペンによる線描
額装 (1)	スチレンボードを用い、素描作品を額装する。							額縁
鑑賞とまとめ (1)	互いの作品を鑑賞し合い、感じ取ったことを鑑賞カードにまとめる。							自己評価カード 鑑賞カード

(2) 評価方法の具体例

本単元では、次の方法で具体的に評価する。

ア ワークシートによる評価方法

身近な自然物の美的秩序を理解することで新たな見方を発見し、自分の得た感動や気付いたことを自分の言葉で表現する。

イ 鉛筆素描とペンの線描による評価方法

対象をよく観察することで形体・量感・質感などの特徴をつかみ、表現材料の特性を生かしながら自己の意図に応じた表現を工夫する。

ウ 額装による評価方法

額装の効果を考えながら額縁に彩色をし、素描の持つモノトーンの美しさが、より引き立つような工夫をする。

エ 自己評価カードによる評価方法

表現の工夫やその意図などを、自分の言葉でまとめる。

オ 鑑賞カードによる評価方法

表現材料の違いによる素描の美しさや、題材のとらえ方、表現のよさを感じ取り、自己の意見をまとめる。

ワークシート

年 組 番 氏 名		
自然物の法則性や素描作品を鑑賞して、自分の理解度を評価しましょう。 A : よく理解できた B : 理解できた C : あまり理解できなかった		
自己評価	植物の種子の並び方や樹木の枝の付き方など、自然物にある秩序や法則の美が理解できた。	A ・ (B) ・ C
	表現材料や描法によって、様々な素描があることが理解できた。	(A) ・ B ・ C
「気付いたこと」や「感じたこと」をまとめましょう。 鉛筆だけでなく、木炭やコンテや絵の具など、何でもデッサンできることがわかった。それぞれに美しさの違いがあることを感じた。 今まで、デッサンは練習作品だと思っていたが、立派な1つの作品だと思った。		

制作の様子



構図を考えながら、ピーナッツを台紙に接着する。



台紙と同じ大きさの制作用紙にデッサンをする。



スチレンボードをカットし、額縁を作成する。



生徒の作品と実際のピーナッツ。

自己評価カード

年 組 番 氏 名	
自己の作品について、制作時の感想や、作品のPRをまとめましょう。	
鉛筆	明暗を意識して立体感が出るように描きました。ピーナッツの皮の凹凸が難しかったです。
ペン	皮の編み目のようなスジを描くのに苦労しました。線の太さに微妙な強弱をつけているところがポイントです。

鑑賞カード

年 組 番 氏 名	
作品を鑑賞した中から、3作品を選び、批評や感想をまとめましょう。	
年 組 番 作者氏名	(鉛筆)・ペン
ピーナッツの細かいスジや凹凸を、本当によく見て描いていると思いました。鉛筆の明暗だけで、こんなに存在感がだせるのがびっくりです。	
年 組 番 作者氏名	鉛筆・(ペン)
線が美しいので、全体的にすっきりとしたデッサンだと思いました。ペンの線描の良さがでている作品だと思いました。	
年 組 番 作者氏名	(鉛筆)・ペン
やぶれた皮からピーナッツが飛び出しているところが、本物みたいです。鉛筆のトーンが美しく、皮の手触りまで感じられるようようです。	

4 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

～「書道」の指導と評価の一体化を進める取組

(1) 評価計画表の例

科目名	書道							
単元名	漢字仮名交じりの書（テーマ17歳）							
単元の目標	(1) 木簡における点画や線質の表し方と用筆・運筆の関係を理解し、ひらがなや他の文言に応用して表現することができる。 (2) 意図に基づく表現の構想と工夫を通して、書表現としての深化を図ろうとする。 (3) 字形や全体の構成を工夫して作品にまとめることができる。							
評価の観点	関心・意欲・態度 〔観点〕	芸術的な感受や表現の 工夫〔観点〕	創造的な表現の技能 〔観点〕	鑑賞の能力 〔観点〕				
内容のまとめごとの評価規準	多様な書表現に関心を持ち、意欲的、主体的によりよい表現を目指し、改善を図ろうとしている。	感性を働かせて、木簡の書に応用させながら、創造的な表現を工夫している。	用具・用材を生かし、古典における点画や線質の表し方を応用することで表現を深化させている。	作品を客観的に観察し、より良い表現を追求することができる。				
評価規準の具体例	テーマに興味を持ち、積極的に構想を練り、よりよい表現を模索しようとする。 木簡の用筆、リズムを取り入れつつ自由に伸びやかな表現を積極的に追求している。 意欲的、主体的な活動を通して表現の構想から完成に至るまでの充実感や喜びを味わおうとする。	テーマを理解し、自分の思いを題材に反映させながら制作の意図を具体化し構想を立てることができる。 木簡の点画や線質の表し方や運筆のリズムを応用し、表現の幅を広げることができる。 意図に基づき、文字の大小、潤濁など作品効果を工夫して自らの表現を高めることができる。	木簡における点画や線質の表し方と用筆・運筆の関係を理解し、表現することができる。 木簡における点画や線質の表し方を応用し、漢字と仮名の調和を図ることができる。 意図に基づき、全体の構成、大小、潤濁等に配慮しながら作品をまとめることができる。	古典に対する印象を大切にし、そのよさを味わおうとする。 鑑賞と表現が相互に関連していることを理解し、書のよさや美しさを感じ取ることができる。				
題材（時間）	学習内容			観点	観点	観点	観点	評価方法
1・2	テーマの具体化、題材の選定と制作意図の明確化 作品の構想立てと試書							制作カード
3・4	木簡の書（漢代・隸書）の臨書 木簡の平仮名への応用							観察、学習カード、 作品（木簡）（いろは）
5・6	漢字と仮名の調和について 作品の試作と工夫・改善							観察、学習カード、 作品
7・8	意図に基づく工夫と作品の改善と完成 作品の発表会鑑賞							観察、学習カード、 作品

(2) 評価方法の具体例

本単元では、次の方法で具体的に評価する。

ア 学習カードによる評価方法

学習内容についての理解や新しい発見、作品への自己評価等が適切にまとめられている。

評価A)..... 作品の工夫・改善の方法について、具体的に記述している。

イ 作品による評価方法

(ア) 木簡の用筆を基調としながら、リズムカルで伸びやかな表現をしている。(作品 . . .)

評価A)..... 筆の弾力を生かした用筆と線質が見られる。

(イ) 意図に基づき、全体の表現や構成について工夫のあとが見られる。(作品 . . .)

評価A.....学習カードに記述した工夫・改善が作品に表現されている。

(ウ) 木簡を応用しながら漢字と仮名の調和を図り、意欲的に表現できている。(作品・)

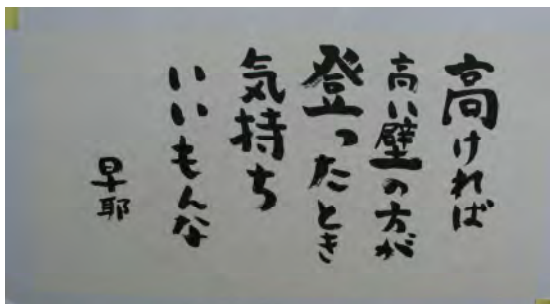
評価A.....漢字と仮名の調和がとれており、作品としてのまとまりがある。

< 学習カードの具体例 >

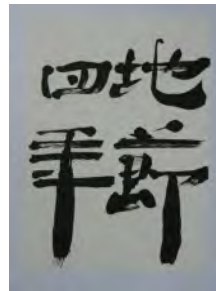
学習カード(書道)		年組番氏名		
月	日	項目	自己評価	先生のコメント
月	日	木簡の臨書作品 (作品) 「いろはにほへと」 (作品)	リズムに強弱をつけ、伸びやかに表現できたか 逆筆はできた。線の太い細いはつけられたが、リズムの変化がいまいちだった。 木簡の用筆、リズムを応用できたか 思ったよりうまくいった。木簡の筆づかいだと形も面白いものになった気がする。	・筆づかいなどよくできています。欲を言うと、文字の大小など字配りへの配慮があるとさらによいものになると思います。
月	日	提出作品 (作品)	木簡を応用し、漢字と仮名の調和に気を付けて書けたか 筆づかいを統一するようにした。まあまあだと思う。 次回に向けて、作品向上のため工夫するところ 文字の大小や潤濁をもっとつけて書くようにしたい。構成も工夫してみたい。	・特に、ひらがなが続いた時に単調になりがちなので工夫してみてください。
月	日	提出作品 (作品) 作品完成	当初の制作意図と変わったところ 大きく変わらないが、構成を工夫して作品にまとまりが出るようにした。筆を細長いものに変えた。 作品の改善のため意識して工夫したところ 大小や潤濁を意識して変化を出した。作品の中央部に余白を作ったらまとまりが出たように思う。	・色々工夫することで作品が大きく変わったと思います。構成を見直したことがよかったと思います。

< 作品の具体例 >

試作

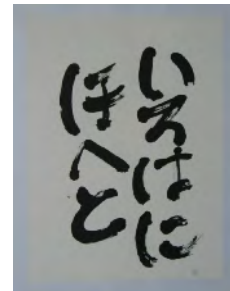


作品



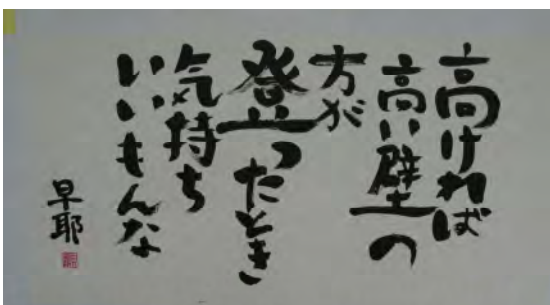
木簡臨書

作品

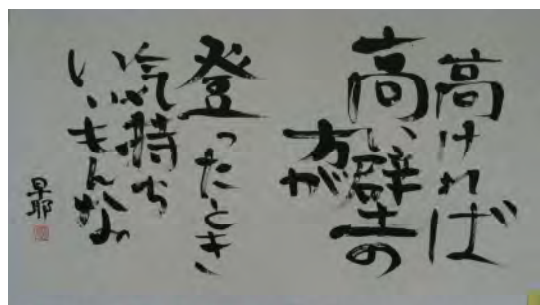


木簡の応用

作品



作品



Topic

実践例

生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるための取組

生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるためには、生徒一人一人の興味・関心や個性を生かしながら、芸術に関する実践的・体験的な諸活動を通して、主体的に芸術とのかかわりを持たせる工夫が必要である。

次は、学校設定科目や総合的な学習の時間等における、芸術三科の垣根を越えた実践例である。芸術に親しむとともに、芸術への興味・関心の幅を広げることをねらいとした取組である。

A 高校 学校設定科目「総合芸術」

3年生の選択科目の「総合芸術」では年間を通して、音楽、美術、書道における日本文化の特徴について学習しています。

音楽.....箏の技法練習、「さくら」の合奏

美術.....花のスケッチ、日本画の制作

書道.....雅印の制作、詩や語句の創作 など

最後に、全員による発表会を開催し、互いの作品や演奏等の鑑賞を通して、生徒の芸術に対するとらえ方や考え方を深めることができました。



< 箏曲の練習 >

B 高校 「総合的な学習の時間」

総合的な学習の時間において、生徒が主体となって芸術に取り組む活動を取り入れています。

テーマ 『展覧会をやるう』

- ・生徒の話し合いによる企画及び宣伝
- ・作品の制作（絵画、書道、写真、BGMの自作自演）
- ・ギャラリーとの打ち合わせと会場作りなど

展覧会の開催を通して、生徒は喜びや達成感を得るとともに、芸術をより身近に感じることができました。



< ギャラリーでの展示 >

C 高校 芸術3科目の「合同授業」

本校の歴史と伝統、卒業生等の芸術作品について理解を深めるため、芸術三科の合同授業を1時間ずつ実施しています。

音楽.....校歌の作詞・作曲者の紹介及び校歌練習

美術.....校章の由来、校内外のオブジェやモニュメントの説明

書道.....校歌の意味と字体を含めた説明、鉛筆での書写

この取組を通じ校内外の芸術作品を深く理解し、校歌を力強く歌うなど、本校生として自覚を高めることができました。



< 校歌練習 >